



おおといっ子 No.7

平成 28 年 9 月 20 日発行

結果「が」大事？結果「も」大事。

リオオリンピック、パラリンピックが終わりました。メダルを目指して取り組む姿に感動した日々が続きました。選手たちは「メダルを取らなければ意味が無い」と口々に言っています。応援する人たちも一緒になってメダルを取った人に感動を覚え、喜び、誉め讃えます。もちろん、メダルを獲得するために厳しい練習を積み重ねてきたわけですから、当然のことです。メディアも大きく取り上げ、いかにメダルに到達することができたか、親の育て方など生い立ちまで紹介し、ドラマ仕立てに紹介します。バラエティー番組にもたくさん登場します。

しかし、教育に携わる自分としてはどこかすっきりとしません。それはなぜでしょう。

先日、連合運動会が城光寺陸上競技場で行われました。市内の6年生が一同に集まり、100メートル走、60メートルハードル走、代表による400メートルリレーに参加しました。6年生は夏休みも基礎練習を行い、本番を迎えました。ここで、「1位をとらないと意味が無い」と言う教師は誰もいないはず。「最後まであきらめず、力を出し切ろう」と言う教師が多いのではないのでしょうか。そして、入賞した人とは一緒に喜び、できなかった人とは一緒に悔しがり励まし合ったと思います。

競技の世界と教育の世界、違うのはもちろんです。ただ、教育の中に結果だけにこだわり、結果が出せないと意味が無いという成果（結果）主義が間違えて入ってきている恐れもあるのではないのでしょうか。オリンピックで感動を覚えたのは、人が目的に向かって一生懸命に取り組む姿にだったはず。メダルはあくまで結果です。そこにたどり着かなくても、たくさんの人たちがあきらめずに取り組む姿があってこそ、感動が生まれたのだと思います。

優勝は人より優れて勝つだけではなく、「負けた人、敗れた人のことも考える優しさ、お世話になった人応援してくれた人に感謝の気持ちをもつ優しさをもてる人」が本当に勝ったと言えるのではないのでしょうか。オリンピックを機会に、子供たちと一緒に、自分が子供だった頃一生懸命に取り組んだことやその頃もっていた夢などについて語ってみてはどうでしょうか。

子供たちが大きな夢をもち、それに向かって一生懸命に取り組めるように、これからも応援していきたいと思います。

「あなたの大きな夢を萎えさせるような人間には近づくな。

大したことの無い人間ほど、ひとの夢にけちをつけたがる。

真に偉大な人間は自分にも成功できると思わせてくれる」

—トム・ソーヤの冒険の著者 マーク・トウェインの言葉より—

